

国立大学法人大阪大学総長選考・監察会議（令和6年度第2回）議事録

日 時 令和6年7月30日（火）10時00分～12時30分

場 所 大阪大学中之島センター

出席者 （経営協議会選出委員）

金倉委員、黒田委員、塚本委員、蓮輪委員、藤井委員、村木委員
（教育研究評議会選出委員）

大政委員、熊ノ郷委員、栗原委員、敦賀委員、中野委員、深川委員

議 題

1. 総長選考に関する検討結果について

事務局から、昨年度に議論を重ねた総長選考に関する検討結果について説明があった。

2. 総長選考の公示について

総長選考の日程について説明があり、学内通知を行うこととなった。

3. 「求められる総長像」について

「求められる総長像」について、種々意見交換の結果、以下のとおり承認された。

「求められる総長像」

大阪大学は、大阪大学の原点である適塾や精神的源流である懐徳堂から受け継ぐ先見性と自由闊達な精神を継承した大阪大学憲章に掲げる基本理念を尊重し、社会との共創を通じた、知の創出と人材の育成によって、人類の幸福と社会の持続的成長に貢献することを目指している。

総長には、その実現を追求する強い意志と、次のような資質・能力を備えている者であることが求められる。

1. 人格が高潔で、学識が優れ、国際的な視野を有する者であること
2. 学内外からの尊敬と信頼のもと、組織のリーダーにふさわしいコミュニケーション力、決断力及び実行力を発揮できる者であること
3. 大阪大学の理念実現のため、将来のビジョン及び方策を明確に示し、これまで築いてきた経営方針を踏まえつつ、高い志をもってその実現に取り組むことができる者であること
4. 実学の伝統と総合大学としての特色を追求し、多様性と包摂性を尊重しつつ、グローバルな教育基盤及び研究環境を構築して、大学の存立基盤を確立することができる者であること
5. 社会変革に貢献する世界屈指の大学を目指し、これまで大学が推進してきた事業を継承しつつ、大学改革を強力かつ柔軟に推進する経営能力を有する者であること

【意見交換における発言】

- ・前回の「求められる総長像」も十分にシンプルな記載である。これ以上表現を減じると意図が伝わらなくなるのではないかと。

- ・これ以上記載項目を増やすと総長の独創性が削られるのではないかと。
- ・リスク管理と戦略的な資源配分は経営の観点から必要不可欠な事項であることから、「求められる総長像」に明記すべきである。
- ・リスク管理と戦略的な資源配分への対応は総長候補者が提示するビジョン実現のための体制整備の中で示されることから、「求められる総長像」に記載する必要はないのではないかと。
- ・「求められる総長像」は総長選考の評価指標に影響することから、リスク管理と戦略的な資源配分に関して「求められる総長像」に記載すべきである。
- ・リスク管理や戦略的な資源配分への対応は、総長選考・監察会議が面接などを通してしっかり確認していく必要がある。
- ・「求められる総長像」の全体構成は、人品骨柄、リーダーシップ、ビジョナリー力、教育・研究基盤確立力、経営能力の5項目とし、リスク管理と戦略的な資源配分は「求められる総長像」には記載せず、面接などを通して確認していくこととする。
- ・次期総長には、これまでの経営方針を継承することを前提としながらも、自身の将来ビジョンや方策を明確に示すべきであるということを強調すべきではないかと。
- ・経営方針まで継承する必要はないのではないかと。
- ・大学変革期では、様々な方針転換の可能性があるため、それに対して柔軟に対応できる人物像とすべきである。
- ・経営には、足元の課題解決が重要であり、ボトムアップで若手が活躍できる組織を作らなくてはならない。
- ・将来のビジョンや方策を明確に示すことが目的であり、そのプロセスとして「経営方針を踏まえる」という表現にすることとする。
- ・学内外からの尊敬と信頼を得られているかどうかを数値化することは難しいが、「求められる総長像」は総長選考・監察会議から学内構成員へのメッセージという側面があることから、「学内外からの尊敬と信頼」という記載は残すべきである。
- ・「学内外からの尊敬と信頼」という記載に学内意向調査を意識したものであるという意味を持たせ、学内構成員が主体的に総長選考に参加する環境を醸成すべきである。
- ・学内外から尊敬と信頼があるかどうかの根拠を学内意向調査の結果に求めるべきではない。総長選考・監察会議は、総長任期の途中であっても尊敬と信頼が無い人物であれば解任させるような気概を持って、総長選考と監察を行わなければならない。
- ・総長選考時だけでなく、総長就任後にも大阪大学、日本のリーダーとして活動するためには学内外からの尊敬と信頼があることが必要なことから、「学内外からの尊敬と信頼のもと」という表現にすることとする。
- ・学内アンケート調査の意見にあった「多様性」について、「求められる総長像」に盛り込むべきである。
- ・「多様性」だけだとばらばらに在るだけになってしまうので、「包摂性」についても「求められる総長像」に盛り込むこととする。
- ・大阪大学が社会を変えていくという推進力を盛り込んだ方がよいのではないかと。
- ・実学と基礎学問を大切にしつつ、「世界屈指の大学を目指す」トップが出てきてもらいたい。
- ・「学内の諸課題に対して適切な指導力を発揮する」ことはリーダーシップの項目に内包されていることから、経営能力の項目には記載せず、面接や監察の中で評価することとする。

4. 総長選考に関する意見交換について

総長選考に関して、(1)総長選考実施要領、(2)共通の評価指標、(3)公開討論のテーマについて説明があり、種々意見交換がなされた。

【意見交換における発言】

- ・ 学内意向調査で戦略会議別の投票数を把握するのであれば、学内にその情報の使用用途を明確に示す必要がある。
- ・ 所信表明演説の際の教職員からの質疑応答は、キャンパス間で不公平のない運用とすべきである。

次回は、令和6年9月5日に開催することとした。